



**農地利用最適化推進
委員となつて**
農地利用最適化推進委員
廣木文雄

今回稲沢生産組合より推薦を受け、農地利用最適化推進委員を務めることになりました。国の新しい政策で生まれた役職でもあり戸惑っておりますが、皆様の指導、助言をいただき活動していきたいと思っております。

改選前は、農業委員として一期務めさせていただきました。以前は土地、農地についてはほとんど関心がありませんでしたが、農業委員として現地調査や農地パトロールをしていく中で、土地、農地の法的重要性を痛感し、年に何度か開催される研修会にも参加し、法令を理解することに努めました。

土地、農地は個人のものであつても、公共性の高いものであるります。国が制度改正による新たな農業委員会の体制、農地利用最適化推進委員に期待しているものは、農地を有効活用して、国民の食糧を安定的に生産することだと考えております。



**農業委員・農地利用最適化
推進委員研修会に参加して**
農地利用最適化推進委員
平山勝久

当日会場の栃木県教育会館に入場し、ほぼ満席の状態になつている会場を見て、その感心の高さに驚嘆させられました。

開会挨拶の後、農業委員会組織・制度を取り巻く情勢についてと題して、全国農業会議所参事・事務局長伊藤嘉朗氏より講義を受けました。主に今回の農業委員会法の改正についての詳細な説明と運用上の課題の取り組みについてお話がありました。

農業委員会・制度改革の目的としては、農地利用の最適化の推進にあります。農地利用の最適化とは、地域の農業者や農地所有者自らが「将来、農地をどう利用するか」を決めることであり、その中心に農業委員会による合意形成活動が必要となります。制度改革により新たに生まれた農地利用最適化推進委員ですが、具体的な業務としては、農地の出し手・受け手へのアプローチを行い、農地利用の集積・



推進委員委嘱式後に、農業委員との顔合わせ会が行われました。農業委員、農地利用最適化推進委員で連携し合い、農地利用の最適化に努めて参ります。



農業委員・農地利用最適化推進委員研修会会場の様子

集約化を推進すること、遊休農地の発生防止・解消を推進といった現場活動が主となり、農地の貸し借りを掘り起こして、農地中間管理機構を活用しつつ、農地を担い手にあつせんする等、農地利用の最適化に特化した業務が中心となつていきます。

以上、大まかに書き出してみました。その任務の重さに改めて重責を感じております。これから農地利用最適化推進委員としての業務を通し、農地利用の総点検を行っていきたくと考えています。